

「行革甲子園2016」の開催 ～プラスの力を生み出す政策コンテスト～



内閣官房

まち・ひと・しごと創生本部事務局

参事官補佐

((前)愛媛県市町振興課長)

萩原 啓

「行革甲子園」開催の経緯

愛媛県における県・市町連携の推進

【県・市町連携推進本部の設置（H22）】（構成：知事、全20市町長）

背景

- ・地方分権の進展
- ・厳しい財政状況
- ・市町村合併の進展

業務の効率化

行政コストの縮減

「知事と20市町長」の
協議・検討等により
連携施策を創出・実行

151項目に及ぶ連携施策を創出



愛媛県における県と市町の強固な
連携関係を生かした「行革」の推進



県・市町間において
連携する意識が定着

行革甲子園 の開催

きっかけ

- 知事の発案
「行政改革に終わりなし」の姿勢
(H22.12 中村時広知事就任)

狙い

- 行革は未来志向の取組であることを共有
「後向きな行革のイメージを、未来志向の前向きなものへ」
- 情報を共有し、お互いが刺激し合い、自らも取り入れる

「行革甲子園2016」開催の経緯

【これまでの開催状況】（県内市町を対象に実施）

第1回 行革甲子園

H24

参加 300名
 応募 県内全20市町から64事例
 概要 ・6事例の発表・審査
 ・福岡県大野城市が参考発表
 大賞 西予市
 若手職員行革チームの設置
 全国知事会から優秀政策表彰(H25)

第2回 行革甲子園2014

H26

参加 350名
 応募 県内全20市町から46事例
 概要 ・6事例の発表・審査
 ・四国他県の3団体が参考発表
 大賞 今治市
 「公の施設の評価」等の策定

発表事例が他の市町に波及

愛媛全体の
行政力底上げへ！

【全国版の開催】

少子高齢化

厳しい財政状況

更なる
行革が必要全国の先進事例のノウハウを
市町村が共有・活用

行革甲子園を全国版に拡大！

「行革甲子園2016」事例募集

募集期間

平成28年6月～8月

応募対象

全国の市区町村

対象事例

行政運営や事業実施における「効率化事例」や「効果拡大事例」、
「新しい手法の導入事例」等とし、例えば、次のような事例

他の自治体との連携による効率化・相乗効果の拡大事例

公共施設等の有効活用・効果的なマネジメント事例

民間の知恵・ノウハウ・資金・パワー等の有効活用事例

ICTの活用による効率化・業務改革事例

業務の標準化・見える化による改善事例

歳入増加につながる取組事例

区分

審査を希望しない区分を設定し、多様な事例収集を図った

ポイント

いかに多くの事例を集めるか！

目標

47都道府県 100市町村

応募

47都道府県 110市町村 104事例

1次審査

全104事例のうち、審査を希望する73事例について、外部審査員4名による書類審査により、当日事例発表する8団体を決定

「行革甲子園2016」事例発表団体

発表団体一覧 (発表順、発表時間10分・質疑応答3分 / 1団体)

市町村名	取組事例名
池田市 (大阪府)	総合窓口の設置から窓口業務の民間委託へ ～ 職員による詳細な業務分析に基づき最適な窓口業務を実現～
大分市 (大分県)	全国初！広域連携による公衆無線LANの整備と認証連携
北見市 (北海道)	「書かなくていいの？」 ～ 証明書の申請をかんたん・スピーディに～
京都市 (京都府)	学校跡地活用の促進
伊達市 (福島県)	DTI《DATE TASK INNOVATION》終わりになき革新 ～ 「トヨタ生産方式」を市役所行政へ～
長島町 (鹿児島県)	ぶり奨学プログラム
葉山町 (神奈川県)	葉山町きれいな資源ステーション協働プロジェクト
松山市 (愛媛県)	下水処理場の未利用エネルギー有効活用による歳入増加策

「行革甲子園2016」当日の内容

名称

行革甲子園2016 ～プラスの力を生み出す政策コンテスト～

概要

p 日時 H28.11.1(火) 12:30～17:00

p 場所 ひめぎんホール(松山市)

p 出席者 350人(全国の自治体職員・議員、学生等(県外60人))

【第1部】基調講演

講師 岡田 武史氏

((株)今治・夢スポーツ代表取締役、(公財)日本サッカー協会副会長)

演題「勝つための組織づくりとサッカーによる地域振興」

【第2部】事例発表・表彰式

書類審査で選ばれた8団体によるプレゼンテーション



会場



岡田武史氏による講演



事例発表

「行革甲子園2016」審査員・評価のポイント

審査員

学識経験者及び有識者の5名で審査を行いました。

関西学院大学教授	小西 砂千夫	審査員長 外部審査員
愛媛大学法文学部教授	兼平 裕子	外部審査員
有限責任監査法人トーマツ パートナー	小室 将雄	外部審査員
プランニング・ボート株式会社 代表取締役	福嶋 祥子	外部審査員
愛媛県知事	中村 時広	

評価のポイント

「創(そう)」、「効(こう)」、「種(しゅ)」の3拍子揃った取組の観点に加え、プレゼンテーションの内容を評価しました。

創(そう)	創意工夫あふれる取組か、独創性・先進性があるか
効(こう)	費用対効果の高い取組か
種(しゅ)	他にアイデアの種を提供する取組か(他の自治体に広がる取組か)
プレゼンテーション	取組の意図や内容がよく伝わるプレゼンであったか

グランプリ

北見市 (北海道)

「書かなくていいの？」
～ 証明書の申請をかたん・スピーディに～



副賞：砥部焼の表彰楯

受賞した北見市の発表者(中央・右の2名)

他の7団体は、優秀賞として表彰

【窓口】住民票などの申請時

【従来】申請用紙に住所・氏名等を記入し窓口へ提出

課題

- (申請者) ・用紙が分からない、書き方が分からない
- ・住所や名前を何度も記入
- (市役所) ・書き方説明、内容確認に時間と手間

複数の申請も
署名1つでOK!

改善

職員が聞き取り、システム入力
申請書をプリントアウト
申請者は に署名するだけ

申請者・市役所とも負担軽減!

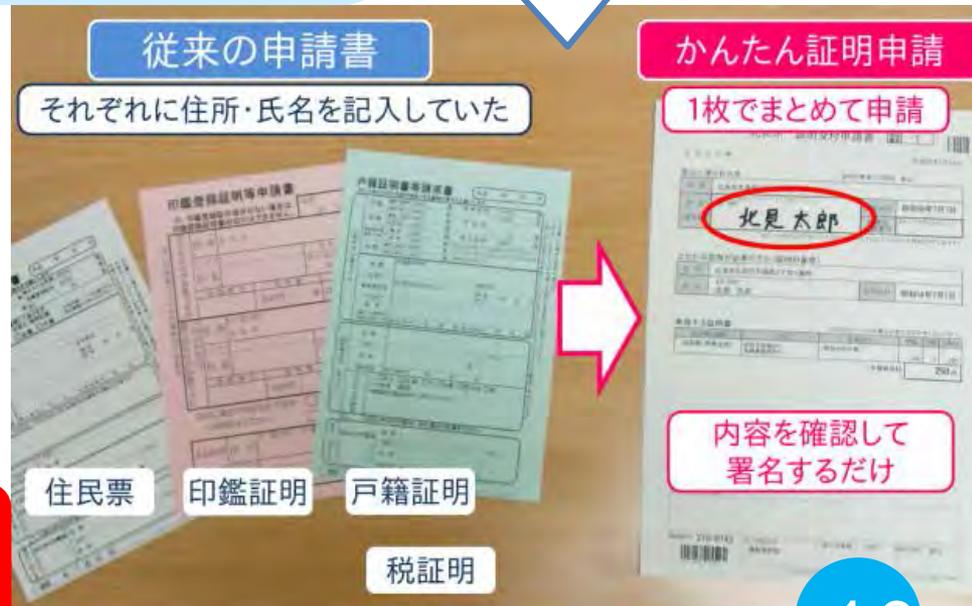


写真:北見市応募書類から
詳しくは、愛媛県ホームページをご覧ください。

「行革甲子園2016」メディア露出

全国にニュース配信

「行革甲子園2016」に係る当日(11/1)の様子や、グランプリ受賞のニュースは、共同通信や時事通信等により全国に配信

専門誌に掲載



地方自治職員研修
(29年2月号)

北見市の取組内容を掲載



地方自治
(29年2月号)

「行革甲子園」について掲載

「行革甲子園2016」優良事例の全国展開へ

愛媛県ホームページ

「行革甲子園2016 ～プラスの力を生み出す政策コンテスト～」の結果概要

平成28年11月1日(火曜日)に開催した「行革甲子園2016～プラスの力を生み出す政策コンテスト～」の結果概要は次のとおりです。

「行革甲子園2016」グランプリの決定

一次審査(書類審査)を通過した各事例発表団体(8団体)によるプレゼンテーションが行われ、5名の審査員にて審査した結果、

北見市(北海道)「書がなべていいの？」～証明書申請をかんたん・スピーディに～」

が「行革甲子園2016」のグランプリを受賞しました。



大会後直ちに全ての応募事例を掲載

事例集の作成



規 格 A5サイズ 376ページ 300部作成
(平成29年2月作成)

配付先 応募市町村、県内市町、各都道府県 他
内 容 応募があった全104事例の取組内容

- ・問い合わせ先(担当課・電話番号)
- ・取組を進める中での課題や他団体へのアドバイス

現場の職員の「行革バイブル」に！

《愛媛発》

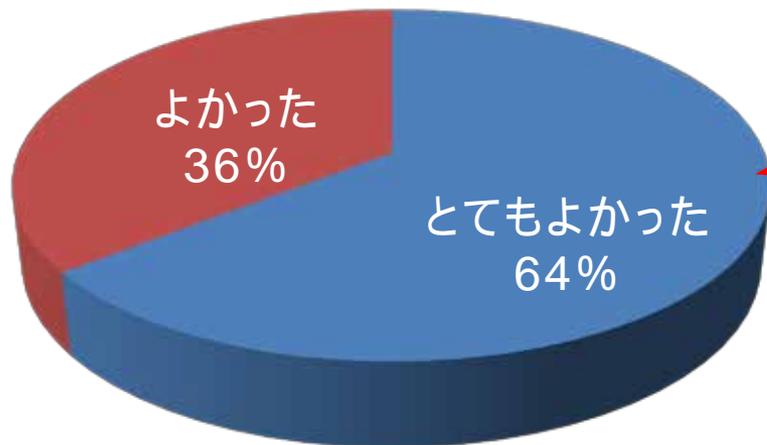
優良事例の全国展開へ

参加者アンケート

- u 自らの自治体にも生かせる事例であった
- u 行政マンの熱意や努力の様子がよくわかった
- u 次回も参加したい、また開催してほしい



大会の感想



■ とてもよかった ■ よかった ■ 普通 ■ 悪かった ■ とても悪かった
N = 182

記入のあった全ての回答が
「とてもよかった」又は
「よかった」

「次はいつ開催？」
他県から問い合わせあり

「行革甲子園2016」今後の展開

次回

平成30年度に2回目の全国版

『行革甲子園2018』(仮)

を開催予定

課題

メディアをより活用しながら、認知度を向上！

更なる応募件数の増加を目指す！！

全国の自治体の知恵と工夫が**愛媛**に結集

全国に波及

全国各地で新しい行革の芽が次々と生まれる！